

# 人魚姫



深い海の中は、濃い青色の世界です。水は透明で、その水の中に美しい魚が住んでいます。それは、素晴らしいパラダイスです。その海には、人魚の王様のお城があります。お后様は、六人のお姫様を産んで、死んでしまいました。お祖母様が、お姫様たち六人と王様のお世話をしていました。お祖母様は、お姫様たちに、色々な世界の話、海の外の色々な国の生活の話など教えてくださいました。

お祖母様は、とても高貴な方で気品に満ち溢れていました。お祖母様は、言いました。「十五才になったら、海の上に浮かび上がることを許して上げましょう。船に乗っている人を見たり、海辺の町を見たり、緑の森や、空飛ぶ鳥、眩しい太陽、とても良い香りの美しい花たちも見られるわ．．．」まず、一番上のお姫様が、十五才になりました。色々なものを見て帰って来た時には、お城や葡萄園の話など、山ほど土産話を持って帰って来ました。馬車の音、人々の声、鳥のさえずり、赤いバラのように、煌く朝日、そして、黄金色の夕日のお話をしてくれました。王様のお城は、色取り取りの珊瑚と真珠が一杯の貝からできていました。

六人のお姫様たちは、すくすくと成長して行きました。特に、末の人魚姫は、六人の中で、格別に美しく、目は、アクアマリンのような緑色で、肌は、ピンク色のバラの花弁のような美しさでした。いつも、人魚姫は、美しい少年の像を大切に持っていました。それは、嵐にあった船が転覆した時に、海に沈んだものでした。

上のお姫様たちに比べると、人魚姫は、物思いにふけることが好きで、海の外に住む人たちのお話を聞くのが大好きでした。

人魚姫が十五才になるまでには、あと五年になりました。その五年の間、人魚姫は、上のお姉さんたちの話を聞きながら、海の上の世界を見る番が来るのをじりじりと待っていました。やがて、待ち遠しかった、五十才のお誕生日のひ、人魚姫は、海の上に上がって行きました。今までのお話では、聞いた事もないような、ずっと素晴らしいものを見たのです。それは、船の上の王子様でした。船の上では、王子様の十六才のお誕生日を祝うパーティーが、行われていました。「なんて、素敵なお王子様かしら…。なんて、素敵なお方なんでしょう！」人魚姫は、一目で王子様が好きになりました。

その時です。急に、空が真っ暗になり、大きな嵐が来て、王子様の乗っている船が沈んでしまいました。人魚姫は、必死で王様を捜しました。海の底に沈んで行く王子様を抱き抱えると、海の上に浮かび上がり、月明かりで覚えて来た町に向かって泳ぎ、漸く、白い砂浜へたどり着きました。気を失っていた王子が、目を覚ました時は、人魚姫は、砂浜の岩場の陰に隠れていました。そこへ、可愛らしい人間の娘が現れ、王子様を見つけると、とても驚いて他の人を呼びに行きました。[助けてくれてありがとう。君は、命の恩人だ！]王子は、その娘の目を見つめて微笑み掛けました。



人魚姫は、とても悲しくなりました。[私が、王子様を助けたのに、王子様、私に気づきもしなかった！酷過ぎるわ！]人魚姫は泣きながら海のお父様のお城へ帰りました。でも人魚姫は、王子様のことを忘れることが出来ませんでした。「また、王子様にお愛したいわ！どこにいるの？」人魚姫は、ついに、我慢できなくなり、上のお姉様に、王子様の事を打ち明けました。[じゃあ、私たちが、王子様の国へ、連れて行ってあげるわ！]人魚姫は、お姉様たちと一緒に王子様のお城の近くの浜辺にたどり着きました。[愛しの王子様！私も、人間になりたい！]

お祖母様が、人魚姫を呼んで言いました。「上の世界に住む人間と、海に住む私たちの違いを話してあげましょう。人間は、命が尽きると、永遠の魂を授かるのです。人魚は三百年も生きていられますが、命が尽きると、海の中で、泡と消えてしまう運命なのです！」人魚姫は、毎日のように、王子様を見るために、お城のバルコニーのそばの浜辺へ出かけました。[お祖母様から教えていただいた、人間になり、永遠の魂を得るたった一つの方法は、王子様との永遠の愛を誓うことだわ！]人魚姫は、人間になる決心をしました。

ある夜、海の舞踏会が開かれました。人魚姫は、上のお姉様たちがダンスをしている好きに、お城を抜け出して、海の魔女の家に行きました。海の魔女は、人間の頭蓋骨でできた気味の悪い家に、大きな海蛇や醜いひきがえると住んでいました。お前の相談事は、全てお見通しだよ！」魔女は海蛇を首に巻いて、不気味な声で言いました。[さあ、この薬をお飲み！飲めば鰭が、2本の足になる。人間のように歩くと、ガラスが刺さったように痛いがね！それと、お前のそのきれいな声をもらうよ！もし、王子様の愛を獲得できなかつたら、お前は次の日、死んでしまうのさ！]

「これで、王子様のそばにいられるわ！」人魚姫は、その薬を飲みました。人魚姫は、ガラスが突き刺さるような足の痛みをこらえ、何とかして、王子様の所へ行きました。「なんて、美しい人だ！今日からこの城に住んでハープを奏でてくれないだろうか？今夜、ダンスパーティーがあるのです」と、王子様は、言いました。「王様のおそばにいられて、王子様のお世話ができて、とても幸せ！」と、人魚姫は、心の中で叫びました。王子様は、かわいい人魚姫をととても大切に、可愛がりました。人魚姫は、王子様に、金や銀の糸であった美しいドレスと光輝く首飾りをもらいました。王子様は、バイオリンを弾き、人魚姫の弾くハープと合奏です。

月日がたち、王子様は、隣の国の王女様結婚することになりました。「声を失って、王子様の本当の気持ちを伝えられなかったせいだわ！」どうにかして、この思いを伝えなければ、王子様の婚礼の次の日、私は、海の泡と消えてしまう！」人魚姫のお姉様が海の上に浮かび上がりました。「海の魔女に私たちの長い髪の毛を売って、このナイフを手に入れたわ！これで、王子様の胸を刺しなさい！そうすれば、あなたは、人魚に戻れるのよ！」お姉様たちから、ナイフを受け取りましたが、人魚姫は、どうしても、王子様を刺す事が、できませんでした。人魚姫は、ナイフを海に投げ捨てました。

「私は、王子様と一緒にいられるだけで、幸せだった！家族も、家も、きれいな声も捨てて、その苦しみと引き換えに、王子様との幸せな時間を得ることができました。王子様の愛は、もう、新しい花嫁のもの。さようなら、愛する王子様！！あなたの幸せをいつまでも祈ってます！」

人魚姫は、次の朝、朝日が上るころ、海の泡となって消えました。何も知らない王子様は、隣の国の王女と結婚して、とても幸せでした。その後、人魚姫そっくりの可愛らしいお姫様が生まれました。人魚姫は、海の泡と消えましたが、永遠の魂を授かり、再び、お姫様として、この世に誕生できたのでした。

